

●待降節第三主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第四十六編」

万軍の主は

わたしたちと共にいます。

ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。



## 自分に頼れるか

ユダヤ人の下役たちはわが主を捕縛し、大祭司アンナスのところへ連行しました。その際、ペテロともう一人の弟子は主が連行される大祭司の家にまでついて行きました。すると、門番の女中がペテロに気づいて「あなたもあの人の弟子の一人ではありませんか」と話しかけました。ペテロは「違う」と答えたのです。思えば、ペテロたちは「あの方の弟子なので、入れさせてください」と言つて中へ入つたではありません。むしろ入る時点で既に「あのイエスとは無関係」という振る舞いをしていたので。そして彼らは、主が受けられる仕打ちをそこですべて見ていました。

大祭司アンナスは主に対し弟子のことやその教えについて尋問を始めました。主はこう答えられました。「わたしは世に向かつて公然と話した。わたしはいつても、ユダヤ人が皆集まる会堂や神殿の境内で教えた。ひそかに話したことは何もない。なぜ、わたしを尋問するのか。わたしが何を話したかは、それを聞いた人々に尋ねるがよい。その人々がわたしの話したことを知っている」と。主の教えに何か「間違い」があるなら、それを聞いた人々の証言をもとに訴え、尋問を始めるべきです。しかし、そのとき突然、一人の下役が主を平手で打ち、「大祭司に向かつて、そんな返事の仕方があるか」と言いました。大祭司アンナスはその暴力を見ても止めようとしませんでした。主はこうおっしゃいました。「何か悪いことをわたしが言ったのなら、その悪いところを証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜわたしを打つのか」と。

「大祭司に向かつて、そんな返事の仕方があるか」と自分を擁護することであるなら暴力をも容認する大祭司アンナス。聖書が教える自己犠牲によって世の力を空しいものとし、「真の力」を示す「大祭司」とは甚だ遠く、世の腐敗した権力に塗れたものになっていたので。

一方、再び人々がペテロに「お前もあの男の弟子の一

人ではないのか」と問いかけました。ペテロはこれを否定して「違う」と答えました。さらに、大祭司の僕の一入で、ペテロに片方の耳を切り落とされた人の身内の者がこう言いました。「園であの男と一緒にいるのを、私に見られたではないか」と。ペテロは再び「知らない」と答えたその瞬間、鶏が鳴きました。これは、主が「鶏が鳴くまであなたは三度『わたしを知らないと言う』」と語られたことが現実となったのでした。

ペテロに彼らと対等な世の力があれば、決して「知らない」とは言わなかったでしょう。数時間前の晚餐では「たとえ死ぬことがあつても、あなたを知らないなどと絶対に言いません」と断言しました。しかし、世の権力の前では風前の灯火のように消えてしまったのです。人はそのような屈辱や力に屈しないために、より大きな力を追いつめる世界になつていないのでしょうか。

大祭司アンナス自身もかつてローマによつて失脚させられたという屈辱を経験していました。しかし、彼が世の権力を象徴する存在としてキリストを屈服させようとしています。ペテロはその力に対抗できず、屈服させられたのです。しかし、大祭司がその権力に頼つて尋問を続ける中で、彼自身の不義が明らかになるばかりでした。不義を隠すために「大祭司にそんな返事の仕方があるか」と平手で打つ暴力が振るわれたのです。この不義は傷のない子羊であるキリストの正しさを際立たせるものでした。

ペテロは鶏が鳴く声を聞いて、外に出て行つて凄絶な痛みと悲しみの大泣きをしました。自分の意志、決心、キリストへの愛がいかに脆く、不確かなものであるかと自分の無力さを知らされたのです。そのように自分の力が砕かれなければ、主への愛も人への愛も自分の力を土台とするもので、恵みを土台とした低きもの、真の力を帯びるものとはならないのです。

人にな「力」とは、自分を無にすることではないでしょうか。無力さを知らされ、屈辱を避けるために高く、偉く、世の力を求める心を捨てることこそ、人にできないこと。最も難しいことは、人のために自分自身を無にし、忍耐し、恥辱を受けることです。しかし、それこそがキリストが示された真の力なのです。

(ヨハネ一八・二二〜二七 黄允湜 牧師)

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

- 礼拝後、讚美集会を地下ホールで行います。
- 試問会、定例役員会をカナルームで行います。
- 次週二二日はクリスマス礼拝です。教会学校と合同で、一〇時からの一回礼拝です。子ども礼拝はありませんのでお間違えのないようにお越しください。

《ぶどうの会より》

讚美集会の後、ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《奉仕班より》

一二月二二日のクリスマス礼拝後、祝会があります。その時に、サンドイッチとロイヤルミルクティーをお召し上がりになる方は、事前に申し込みを受け付けています。ディアコニアショップ横にある封筒にお名前をお書きになり、代金四〇〇円を入れて、その下にある箱にお入れください。今日が締め切りです。



《交読詩篇》

※会衆は太字を唱和します。

【詩篇四十六篇】

指揮者に合わせて。コラの子の詩。アラモト調。歌

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。

苦難のとき、必ずそこにいます

助けてくださる。

わたしたちは決して恐れない

地が姿を変え

山々が揺らいで海の中に移るとも

海の水が騒ぎ、沸き返り

その高ぶるさまに山々が震えるとも。

大河とその流れは、神の都に喜びを与える

いと高き神のいます聖所に。

神はその中にいますし、都は揺らぐことがない。

夜明けとともに、神は助けをお与えになる。

すべての民は騒ぎ、国々は揺らぐ。

神が御声を出されると、地は溶け去る。

万軍の主はわたしたちと共にいます。

ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。

主の成し遂げられることを仰ぎ見よう。

主はこの地を圧倒される。

地の果てまで、戦いを断ち

弓を砕き、槍を折り、盾を焼き払われる。

「力を捨てよ、知れ

わたしは神。

国々にあがめられ、この地であがめられる。」

万軍の主はわたしたちと共にいます。

ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。

《今日の子ども礼拝》

説教 「人となられた神」

聖書 ルカ2章1〜7節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

クリスマス礼拝

●主日合同礼拝（午前10時）

讃美歌 106番 102番

説教 「喜びを見つけた旅」

聖書 マタイ2章1〜12節

説教者 黄允湜 牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 94番 76番  
説教 「栄光の神が」  
聖書 使徒7章1～8節(新約 P.224)  
司式 石川一兄  
聖餐司式 黄允湜 牧師  
説教者 宮間彰広 兄

前奏曲「わが魂は主をあがむ」J.S.バッハ

### ○讃美歌94番

1. 久しく待ちにし 主よ、とく来たりて

み民のなわめを 解き放ちたまえ

主よ、主よ、み民を 救わせたまえや

2. あしたの星なる 主よ、とく来たりて

お暗きこの世に み光をたまえ

主よ、主よ、み民を 救わせたまえや

3. ダビデの裔なる 主よ、とく来たりて

平和の花咲く 国をたてたまえ

主よ、主よ、み民を 救わせたまえや

4. ちからの君なる 主よ、とく来たりて

輝くみくらに とわに即きたまえ

主よ、主よ、み民を 救わせたまえや

アーメン

### ○聖歌隊による讃美

「声もたかく」 サン・サーンス作曲

声もたかく ほめまつれ

聖きみとのに います主を

あめつち喜び歌え

主を迎えまつれ 主を

ハレルヤ ハレルヤ

### ○讃美歌76番

1. ほめまつれ 御神をば そのわざに秘めたもう

またき力、またき知恵 たたえまつれ もろびとよ

2. 地は空をわたりつつ くにぐにを乗せめぐり

つとめの日をおがしめ いこいの夜をむかえしむ

3. ものみなは とどまらず はてしなき移ろいや

みことのりにしたがいて 山はうつり 海も消ゆ

4. おおいなり天つかみ み名にのみほめまつれ

くすしきかな御手のわざ こえのかぎりほめうたわん

アーメン

聖餐曲「わが飼い主は愛の王」レイノド H.ハーン

後奏曲「キャロル」

(ウェンセスラスは良い王様) によるトッカータ

M.オーウェンス

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。